

台北县政府幼児教育資源センターにおける家族生活教育と
読書活動・親子読書活動
－台湾における家族生活教育の実践－

Family Life Education and Fun Reading
in Early Childhood Education Resource Center, Taipei County:
Family Life Education Practices in Taiwan

倉元綾子

KURAMOTO Ayako

台北县政府幼儿教育资源センターにおける家族生活教育と
読書活動・親子読書活動
－台湾における家族生活教育の実践－

Family Life Education and Fun Reading
in Early Childhood Education Resource Center, Taipei County:
Family Life Education Practices in Taiwan

倉元綾子*

KURAMOTO Ayako
(Received September 30th)

Family Life Education and Fun Reading in Early Childhood Education Resource Center, Taipei County were examined as a Family Life Education Practices in Taiwan. The following results were clarified.

(1) In Taiwan, the fun reading with parent and children are located in “Happy Family 123” of Family Life Education, “1. Parents do every day, 2. For 20 minutes, 3. Activities with children, reading, cooperation activities, and sports/playing.” It is valued to promote intimate family relationships/ relationship with parents and children through these activities. Moreover, the fun reading is thought to be a foundation of learning based family.

(2) The Early Childhood Education Resource Center provides the various reading activities such as the story house, book/media delivery services, the parents and children kangaroo camp, the reading under the green shadow, and storytelling.

(3) The training of storytelling volunteer, guidance lectures for fun reading, and various guidebooks are executed as the important things to promote fun reading with parents and children.

キーワード：家族生活教育 family life education, 幼儿教育资源センター Early Childhood Education Resource Center, 読書活動 Reading, 家政学 home economics, 台湾 Taiwan

1. はじめに

(社)日本家政学会家政教育部会では日本における家政学を基礎とする家族生活支援の方法としての家族生活教育の確立を目的として、先行して家族生活教育を推進している米国、台湾、韓

* 鹿児島県立短期大学（〒890-0005 鹿児島市下伊敷1丁目52-1, Kagoshima Prefectural College, Kagoshima 890-0005）



Fig.1 台北県幼児教育資源センター (莒光小)

国などの状況について検討してきている^{1)~5)}。

台湾では家政学者が中心となって2003年に家庭教育法を成立させ、学校教育のなかで家族生活教育が行われるとともに、地域ニーズに対応する家庭教育センターが全国に設置され、教育が展開されている。

台北県(現 新北市; 以下、台北県と表す)⁶⁾においては、家族生活教育は他の学校教育や社会教育と密接に結びついて小さい単位できめ細かいシステムが構築されている。たとえば、短期補習教室情報管理システム、社会教育知識ネットワーク、社会教育資源サービスネットワーク、男女共同参画ネットワーク、生涯学習ネットワーク、家庭教育ネットワーク、子ども読書ネットワーク、教師のネットワークリテラシーと意識ネットワーク、ジェンダー平等教育情報ネットワークなどがある⁷⁾。これらは、小学校の学区単位で拠点となるセンターを持ち、相互に網の目を作って重層的に運営されている。

ここでは、家族生活教育における読書活動・親子読書活動の位置づけ、台北県幼児教育資源センター (Fig.1)における家族生活教育と読書活動・親子読書活動の実際について検討し、日本における家族生活教育への示唆を得る。

2. 研究方法

2009年9月5~8日に台湾の家族生活教育に関係する施設を訪問し、観察やインタビューを行い、資料を収集した。主要な訪問先は、大観國中(大観中学校)敷地内の台北県家庭教育中心(家庭教育センター)、莒光國小(莒光小学校)、幼児教育資源中心(幼児教育資源センター)、後埔國小(後埔小学校)、輔仁大學(輔仁大学)である。また、関連するWebサイトから資料を収集した。以上の資料を翻訳し、分析を行った。

3. 結果および考察

(1) 家族生活教育における読書活動

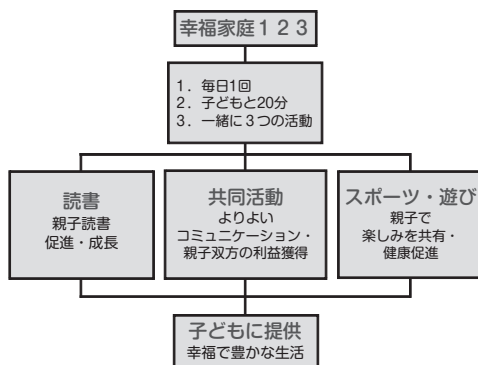
台北県では親子、青少年を対象にした家庭教育の冊子を発行している。台北县政府『台北県「新家庭運動－幸福家庭123」親子手冊』（台北县政府，板橋市，2006），台北县政府家庭教育中心『台北県幸福家庭123親子手冊（青少年篇）』（台北县政府家庭教育中心，板橋市，2008），台北县政府家庭教育中心『台北県家庭教育手冊（第二版）幸福家庭 EASY GO』（台北县政府家庭教育中心，板橋市，2009），台北县政府家庭教育中心『台北県新家庭運動 幸福家庭123－青少年篇』リーフレット，新北市政府『新北市政府幸福家庭123親子手冊（児童篇）』（新北市政府，新北市，2011）などがそれにあたる（Fig.2）。

読書活動は，家族生活教育においてFig.3のように位置づけられている。

すなわち，「真の家庭運動の意味（読書，共同活動，遊び）」の目的は，家族の相互作用と家庭教育の推進である。これらは，「1. 親が毎日，2. 20分間，3. 子どもと一緒に3つの活動 ①読書，②共同活動，③スポーツ・遊び」の活動のなかに位置づけられている。これらの活動を通じて，親子が深い関係を結ぶことをめざしている。これらの活動について，『台北県幸福家庭123親子手冊』⁸⁾，『新北市政府幸福家庭123親子手冊（児童篇）』⁹⁾，『台北県幸福家庭123親子手冊（青少年篇）』¹⁰⁾などでは次のように記述している。



Fig.2 『幸福家庭123親子手冊』および『幸福家庭 EASY GO』



資料出所：台北县政府『台北県「新家庭運動－幸福家庭123」親子手冊』（台北县政府，板橋市，p. 4, 2006）
 台北县政府家庭教育中心『台北県幸福家庭123親子手冊（青少年篇）』（台北县政府家庭教育中心，板橋市，p.12, 2008）
 台北县政府家庭教育中心『台北県新家庭運動 幸福家庭123－青少年篇』リーフレット
 新北市政府『新北市政府幸福家庭123親子手冊（児童篇）』（新北市政府，新北市，p.10, 2011）

Fig.3 「幸福家庭123」の活動と目標

「読書」

読書は親が子どもと共に身につける良い習慣であり、楽しい読書のなかには全てが存在し、生活習慣、行為規範、情緒について指導し、文化的価値観と人生の信条が自然に伝わる。親子読書は親と子どもの大変良いコミュニケーションの媒体である。もし親子読書の過程で、巧みに物語の内容と生活事象を結びつけることができるならば、子どもの内面世界と子どもを自然に教育することを理解することができ、ものごとの認識と処理を多様化させる。同時に、親子読書は大人にやさしさと謙虚さを学ばせ、子どもに自信をもたせ自尊心を高めさせる。

「共同活動」

近代的な良い親であるという容易ではないことをするのは、学習によって可能になる。もっともやり遂げやすい方法は、共同活動を行うことであり、その内容は広範であり、なんでもよい。同じ気持ちで話を聞き共同活動をするを通して、親と子どもが理解し受容することができるとき、共にゆずりあいとバランスに到達する。意図的に建設し、敏感に詳細に観察することを通して、親は子どものために共同の生活体験を提供するだけではなく、さらに深い生活を構築し、共にすばらしい家庭の思い出を作る共同活動をすることができる。したがって、親はどんなに忙しくとも、毎日必ず時間をつくって子どもと共同活動をしなければならない。

「スポーツ・レジャー」

スポーツを家庭生活の一部にし、子どもの健康的な楽しい性質を成長させ、同時に子どもに各種の異なる生理的・心理的体験活動をさせることは、持続的に努力している動態の過程のひとつであり、スポーツの利益は多く、休養には利益があり、いったん習慣になれば、子どもが受ける一生の利益は尽きることがない。もし親子が共にスポーツやレジャーに参加することができるならば、子どもに幸福、楽しみ、満足をもたらすばかりでなく、さらに子どもの心身の健全な発展を促し、潜在的エネルギーを十分に開発することができる。親子共にすばらしい成長の足跡を残す。

『台北県幸福家庭123親子手冊（青少年篇）』では、全96ページ中24ページ（25%）が親子読書活動に割かれている。親子読書活動の意義については以下のように記述されている¹¹⁾。

読書は、心の知恵の窓を開き、人生の虹と星明かりを見せる。

「読書はすべての学習の基礎である」、読書を通じて理解力を増進させることができ、創造力を育成する。さらに読書は全人的発展のための重要な道筋であり、過去を知り未来を知ることができ、心の成長を啓発し、生活経験を広げ、多元的な知恵を知り、さらに生命を色彩豊かにする。常に読書し、自ら向上することができ、自ら発見し、知識を新鮮に保つことができれば、社会は脈動し持続的に発展する。

「良い鳥のこずえもまた友達である、花の落ちた水面は全て文章である」、普通、読書は常に文字に限られているが、人を大変豊かにし、大変自由にさせる。書物の文字、ネットワークの情報、図、身体の動

倉元：台北県政府幼児教育資源センターにおける家族生活教育と読書活動・親子読書活動

作、音の映像、さらには自然界の多くの現象など、すべてが読書の素材になる。私たちは3つの道を通じて読書の楽しみを享受することができる。：(1) 文字を読む：図書、新聞、雑誌、ネットワークなど、(2) 感覚器官で読む：球技試合、絵画展、オペラ、物語、対話など、(3) 心で読む：感動、共同活動、新しいアイデアを生み出すこと、人間的配慮など。

家庭は読書の発源地であり、読書の習慣を養成する最も重要な場所である。もし十分に家庭の影響力が発揮できるならば、子どもに小さいときから読書に触れさせ、読書を喜び、さらに読書の習慣を育成し、また、子どもが世界に入っていくきっかけを作り、子どもに将来の学習と発展の基本的道具をも用意する¹²⁾。

親子読書の内容は、親子対話、共同活動、男女問題、健康管理、生命教育、法律常識、着実な夢の実現、資源の流れ、創意工夫のある生活、木陰でささやく、である¹³⁾。

なお、『新北市幸福家庭123親子手冊（児童篇）』においても同様に、全95ページ中22ページ（23%）が親子読書に割かれている¹⁴⁾。

『台北県家庭教育手冊（第二版） 幸福家庭 EASY GO』は、親教育において、学習型家庭の経営を推進し、その中に読書活動を位置づけている¹⁵⁾。下線部は読書活動に関連する部分である。

家庭教育（家族生活教育）はすべての非正規教育の基礎であるため、もし親教育の中で常に読書する習慣を身につけることができるならば、大人は子どもの発展段階に従って学ぶことができるだけでなく、子どもも学習の楽しみを享受することができ、学習する情熱を保持する結果、もはや「試験のための読書、高い点数のための学習」ではなくなる。近代的な社会のなかで、家庭は養育機能、経済的機能、社会的地位の機能を備える以外に、さらに社会化や感情的機能を備えなければならない。子どもを一人前にするだけでなく、さらに人間的配慮をする人間；個人が集団の生命の中で地位を占めるだけでなく、さらに個人は集団の中で役割と責任を負うことを願う（許素梅、1999）。

しかし、「生活即学習」は、いわゆる学習型家庭が単に厳粛な課題であるだけでなく、さらに多くの情愛と時間を家族のために割き、さらに家族に大きな関心をもち、互いに引き立て、家庭員が共に学習し成長する雰囲気を作り、さらに生活を幸福にする；その結果、効果的にコミュニケーションし、内面の本当の感情を分かち合い、家庭問題や圧力に共同して取り組む（教育部、1999）。

学習型家庭の機能には家庭の発展段階ごとの異なった任務と学習の需要によって、違いが生じる。持続的で絶え間ない学習、親密に協力する関係、互いに連絡するネットワーク、集団で共有する観念、新機軸を打ち出す発展の精神、系統的思考方法、および知能の構築など7つの特徴がある。（以下略）

また、学習型家庭の建設のために、（1）家庭の親教育、親子共同学習、（2）豊富な学習内容の提供、（3）共同活動は学習型家庭の重要な活動、という3つの提案をしている。

(1) 家庭の親教育、親子共同学習

「家庭」は個人が生涯にわたって学習し成長する集団である。親子は共通の関心事に取り組み、絶えずコミュニケーションし、討論し、分かち合い、励ましあいながら、双方の意見を言うことを通じて、双方の心の声を聞くことで、親と子は愛と配慮のなかで共に成長する。家庭のなかで親子が共同で学習し、集団の方法を成長させることは、5つの原則に帰することができる。

1. 共同学習の信念

学習は、家族が共通の興味を育成することができるようにさせ、家庭をさらに健全にする。親子が多く時間を共有し、共に学習するのは楽しみであり、意義のあることである。親がいつでも1粒の知的探究心を持ち、個人的経験と子どもとの共同学習を願って、手元のことをいったん置いて子どもの感想の発表に耳を傾けることが望まれる。その上、親子間ですべて成長を激励することができ、双方がすべて良い先生となり、自分の力を提供することができ、生活のなかの異なる面を互いに学習することを助ける。

2. 積極的な学習環境の建設

家庭の経済的条件に応じて、学習に関連するソフトウェアやハードウェア設備を購入する。例えば、机、本棚、書籍、新聞雑誌、情報設備など。設備以外には、競争的でなく、脅迫的でない開放的環境を建設しなければならない。親子は互いに家庭を生活の重点にすることを願い、学習の共有に時間を用い、環境に応じて変えるために心を開き、適切な時期に自ら反省し調整して、家庭の未来について共に奮闘して、共同して展望するビジョンがある。

3. 親子共同学習のスキルの運用の強化

親子は付き合いが親密であるため、時には意見の衝突あるいは行為の摩擦が生じる。そのため、スキルの運用は相対的に重要である。親子間でよく褒めあって、互いに異なる見解に気づき、常に情報を交換し経験を共有する習慣を養成し、関心が共通している学習テーマを探し、民主的で開放的な方法で対話を深め、多角的に討論し、形式にこだわらない学習活動を行って、知能を激しく揺り動かす方法を利用して、最も適当で、最も首尾良い問題の処理方法を探し出す。

4. 資源の探索と運用

親子が分業して学習資源を探索し、分かち合い、双方が迅速に生活をめぐる問題を解決するのを助けるだけではなく、さらに生活の質を高め、さらに家庭が求心力と凝集力をもつようにさせる。

5. 不断の検討と家庭へのフィードバック

共同学習する過程で、親子が常に新しい情報、新しい観点、新しい方法を発信し、常に検討され家庭にフィードバックされる。

(2) 豊富な学習内容の提供

親は、家庭環境を経営し、あるいは仕事と休息の時間を計画し、学習内容を組み立て、家族員が活動に参加できるようにし、共同活動させ、知識と情報を学習させ、家族の凝集力を増進させる。以下にいくつかの学習型家庭の活動を提案している。:

倉元：台北県政府幼児教育資源センターにおける家族生活教育と読書活動・親子読書活動

1. 家族共同読書

親は、子どもが寝る前の時間を利用して枕元で物語を共有することができ、あるいはその他の特定の時間を選んで、親子が一緒に特定の本を読むことができる。親子共同の読書は良好なコミュニケーションの媒体になり、大人の学習をやさしくさせ、子どもに強い自尊心や自信をつけさせ、家族の団結を促進する。

2. 家族と共に仕事をする

親は、特定の時間に、家族全員がいっしょに家事やボランティアを行うように計画し、楽しみを共有しあうことができるだけでなく、関連する技能と経験を学習し、サービス精神を育成して、弱者に配慮できるようにさせる。

3. 家族と共に遊ぶ

家族全員が、特定の時間を利用して、共に家庭の娯楽活動を行うようにできる。例えば：ゲーム、レジャー、旅行など。ゲームの過程で、家族はコミュニケーションを深め、対話ができ、子どもに各種の異なる体験をさせ、問題解決の方法を試みさせ、楽しみ、自由、満足をもたらすことができる。もし家族全員がいっしょに旅行の計画を立てるならば、知的な旅行を計画することができ、家族は共に資料を収集し、計画と行程を協議し、旅行の後で互いに収穫の感想を分かち合う。これは1種の学習過程であって、親と子はすばらしい成長の足跡を残すことができる。

4. 家族と共に成長する

個人の学習は家族全員の成長を促進することができ、親はサポートグループやブッククラブなどの活動に参加して、家庭における学習の気風を育てることができ、家族とともに新聞読み、本読み、コンピュータ学習、ネットサーフィンを行い、絶えず自ら成長していく。その他、親は冬休み・夏休みを利用して毎週異なる学習テーマを計画することができ、子どもと共に異なる活動のなかで学習し、家族の相互作用を増進させ、同時に子どもが各種の能力を育成するのを助けることができる。

(3) 共同活動は学習型家庭の重要な活動

家庭の学習活動を通じて、常に自分の学習欲求と学習したことを受けとめ、さらに知識と知恵を交流し分かち合うことによって、学習型家庭の理想を成立させることができる。親と子は異なる深さの「コミュニケーション」を行うことができ、共有する目的を達成し、耳を傾けることを通じて、双方が調べ受容するなかで、需要の妥協とバランスの取れる点を探る。

1. 感情的および身体的身体言語を通じて、互いに交流する。例えば手を繋いだり、抱擁したり、キスしたりする。
2. 家庭で決まった談話時間を計画する。簡単なコミュニケーション、雑談、休日活動、チャットなど。
3. 興味のあるテーマ、あるいは直面する問題について対話し、討論する。例えば、知的探究心を利用する、共同して家庭圧力に取り組む、家事について議論する、読書してヒントを得る。
4. 内面的感情を説明して、深い対話を分かち合う。例えば：個人の生涯の計画、感情生活、あるいは衝突の処理、建設的なフィードバックなど。

以上のようにして経営される学習型家庭について、「学習は生涯役に立つ良好な生活習慣で、家庭のなかで親子がいっしょに学習嗜好を育成し、いっしょに同じ目標のために気力を充実させることができ、まさに家庭資源を増加させ、未来の潮流、問題解決能力を高め、成長の喜びを享受させ、家族全員の共通認識と求心力を凝集させ、家庭の生活をさらに暖かいものにし、生活の理想の実現を完遂させる。」と述べている¹⁶⁾。

さらに、これらを通じ、親密な家族関係・親子関係を構築するとしている。「親密で丁寧であること／家庭を担う責任をもつ親が配慮し、根気よく、相互作用し、模範的な学習型家庭を建設することができるならば、家庭をひとつの理想的学習環境として経営し、親子間に絶えず生活に関する対話と、互いに学習成長し、生活する楽しみを持ち、感性と理性を兼ね備えた優良な親子関係を建設することになる。」¹⁷⁾

(2) 家族生活教育における「読書好き家庭」プログラム¹⁸⁾

以上のことから、家族生活教育では「読書好き家庭」プログラムを企画し、家庭親子読書活動を実施して、全ての市民が参加する読書活動を奨励し、読書を好み、読書熱心になることを奨励している。家庭教育センター・幼児教育資源センター・幼稚園・学校・コミュニティ大学・NGO および公立図書館などは資源を提供しネットワークを形成する拠点となっている。キャンプ、講座、出張講座、工夫するDIY（親子が家の中にあるものを活用して創作活動をし、家庭資源の利用と管理を重視する）、親子共同活動、問題解決能力向上、Fun 電子図書、法律問題情報提供を通じて、読書活動を推進している。

また、読書に関する番組があり、好きな本に関する情報、読書家・専門家からのお勧め本、読書活動の事例、投書コーナーを通じて情報を提供している。

(3) 台北県幼児教育資源センター

読書活動推進の拠点の一つである幼児教育資源センターは約20年の歴史をもち、家庭教育センターよりも前から活動してきた。台北県幼児教育センターは、1989年に設置され、幼児教育教材の研究およびその推進、教師の研修、親子教育、幼児教育関連の会議に責任を負っている。2000年に設置された「幼児教育課」が、2008年に「幼児教育科」に昇格し、いっそうの発展をみせている¹⁹⁾。

その任務には以下の6項目があげられている。

1. 幼児教育組織の活動強化、活動ネットワーク確立。
2. 行政サービスへの協力支援提供、幼児教育の政策や施策実施。
3. 幼稚園スタッフの質の向上、知的能力に関わる幼児教育推進。
4. 親教育、幼児教育の正しい概念の普及。
5. 幼児教育資源の適切な運用、知識の共有と交流促進。
6. 円滑な幼児教育相談チャンネル、アドバイザー・サービスの提供。

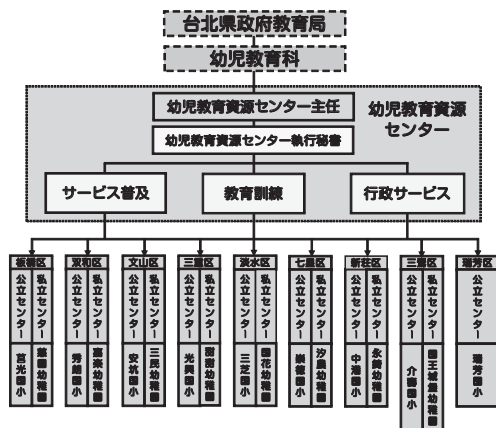


Fig.4 台北県幼児教育資源センター・機構図

このうち、最も重視されているのが親教育である。これは家庭教育センターが提供する親教育（親職教育）とも連携している。対象者は、保育労働者、親、関連部門の幼児教育の学生、地域社会の幼児教育に関心をもつ人々である。

台北県幼児教育センターは、組織機構図の中央部分に位置している（Fig. 4）。センター主任1名（莒光国小校長が兼任）、執行秘書1名、幹事6名の合計8名によって、サービス普及、教育訓練、行政サービスが一体的に運営されている。さらに、台北県では地域を9つに分割し、地域の幼稚園・保育園・国民小学校が公立センターの園長を議長とした組織を編成して活動している。

各区のセンターの仕事内容は、幼児教育情報の伝達、幼児教育の宣伝物・ポスター・書籍などの配布、幼児教育研修会の実施などである。2009年度は、組織運営の強化、サービス提供、関係者の能力向上、親教育の推進、適切な資源の運用、円滑な相談サービスに焦点を当てている。

（4）台北県幼児教育資源センターにおける親教育

台北県幼児教育資源センターにおける親教育には、親子夏合宿、親教育講座、新住民指導、親子読書活動などがある。ここでは、親教育講座と親子読書活動について見てみる。

1) 親教育講座

同センターにおける親教育講座の目的は、「親が正確な教育方法を構築し、親子の相互関係を良好にすること」「親子間のコミュニケーション法を提供し、親子の情感を増進させること」「優れた親子教育を伝え、家庭の機能を活性化させること」である。

親教育講座は、2007年には8回、7カ所の公立幼稚園で実施され、参加者357人である。2008年には4回、4カ所の私立幼稚園で実施され、参加者197人である。講座参加者への満足度アンケート結果は、場所、時間、テーマ、内容、講師、進め方など、いずれの項目でも

100%近い満足度である。講座では、参加者が安心して活動に集中できるように、幼児の活動が並行して実施されている。

2009年には、9月から11月、4カ所で親子読書推進講座が計画されている。また、運動をさらに精緻なものにするために、淡水国中付属幼稚園において「就学前の子どもをもつ親が学習し、技巧改善して親子関係の成長を促進することを学習する班」が講演や個別の事例の検討を行い、親子の相互活動を推進している。

2) 親子読書活動

親子読書活動は幼児教育においても重視されている²¹⁾。これは、家庭教育における「閲読」「親子閲読」「学習型家庭」とも関連している。

幼児教育資源センターを中心に推進されている親子読書活動の目的は、以下のとおりである。

- ・ センターが運営する図書館に所蔵する図書・絵本の活用の拡大、資源の共有と有効利用
- ・ 幼稚園教師の読書指導のための教育研修
- ・ 幼稚園の親子読書と幼児の恒常的な学習を満足させること
- ・ 幼稚園教師による幼児教材利用の奨励と教材提供
- ・ 親子への多元的活動の提供、親子の生活の楽しみや興味を豊かにし、温和で快活な親子関係を作ること

実施された活動は以下のとおりである。

2005年：各幼稚園における読書教育・親子読書活動を推進する種子となる教員研修

2006年：国際結婚家庭における親子読書活動の推進

2007年：テーマ別の本のセット、絵本、CD、DVDの宅配サービス開始（宅配かばん）。

絵本お話館の建設計画。

3) 絵本お話館（絵本故事館）・宅配サービス

絵本お話館は幼児教育資源センターの附属施設として設置されている^{22,23)}。以前の校長公舎を改修し、2008年12月に完成した。内部には書籍、視聴覚資料、事務室が置かれている。写真（Fig.5）に示すように、外部を展示棚とし、毎月テーマを変えて展示を行うとともに、子どもが自由に手にとることができるようになっている。周囲は、机、椅子、芝生、藤棚などを置き整備され、子どもたちの読書と遊びの空間となっている。開館は、月曜から金曜、8時から16時までである。

16大テーマ²⁴⁾ 47個別テーマに関する書籍、合計94セット、2359冊、セット本124組、2041冊、視聴覚資料、CD579本、VCE80本、DVD341本、合計1000本、その他の書籍679冊、教師用図書33冊を所蔵している。2008年1月～12月の貸出数は、書籍11970冊（1ヶ月約1000冊）、視聴覚資料が512本（1ヶ月約40本）である²⁵⁾。

同館では宅配サービスが行われており、センターから離れていたり、家事・育児のため、直



Fig.5 絵本お話館



Fig.6 宅配かばん



Fig.7 『主題閱讀共学資源手冊』

接センターを訪れることが難しい個人やグループに対し、宅配用かばん (Fig.6) を用いて、まとめて本の貸出しを行っている。受付、配送は、火曜から金曜、9時から11時、13時30分から15時30分に行っている。1回の宅配サービスで、図書5セット、単行本10冊、視聴覚資料5本までの貸出が可能で、期限は4週間である。

また、読書活動を推進するための指導用資料として、2009年に『台北県幼児閱讀指導叢書 健康・品德・自然・能力 主題閱讀教学資源手冊』(台北県政府教育局)を作成している (Fig.7)。この作成には16人の教師が協力した。本書は4分冊1CDからなり、「健康、道徳、自然、能力」の4つのテーマで100冊の推薦図書を紹介し、解説と指導法を掲載している。全幼稚園、356ヶ所に配布された。コピーし、読書教育に利用することができるようになっている²⁶⁾。

4) カンガルー読書キャンプ、緑陰読書時間、読書の楽しみ講話

親子読書活動には、カンガルー読書キャンプ、緑陰読書時間、読書の楽しみ講話が含まれる。

カンガルー親子読書活動キャンプは、2009年には、9月から12月、毎月1日2回、1回2時間、合計8回、実施されている。このキャンプの実施主体は台北県政府教育局、実施場所は莒光小の台北県幼児教育資源センター、対象者は台北県の4歳から8歳までの子どもとその親、毎回親子10組、合計20人までである。活動内容は、以下のとおりで、親対象のものと、親子を対象とするものがあり、戸外での活動を含んでいる (Fig.8,9)²⁷⁾。

絵本総説 みんなで絵本をみる (親対象)

様々な絵本 各種の絵本のスタイル・種類の紹介 (親対象)



Fig.8 親子読書活動関連講座による製作物1



Fig.9 親子読書活動関連講座による製作物2

絵本をつくろう 親子で作ろう「小型絵本」「立体絵本」(親子対象)

人形製作 簡単な素材で簡単な人形劇を演じる(親子対象)

読み聞かせ総説 読み聞かせを楽しむ(親)

読み聞かせ体験活動 絵本を本当に楽しむ(親対象)

読み聞かせゲーム 音声・動作・表情とゲーム, 関連性と役割を理解する(親対象)

ドラマゲーム: 森林アドベンチャー 親子と一緒にドラマの楽しみ興味を作る体験(親子対象)

ドラマゲーム: 子どもアドベンチャーパーク 親子でドラマの楽しみ興味を作ることを共有する(親子対象)

親子劇場 親子でドラマの楽しみ, 興味を作ることを共有する(親子対象)

緑陰読書時間は、毎週土曜日1時間、「読書園」絵本お話館(絵本故事館)の活用を促すために企画されている。2008年の「緑陰読書時間」活動については、莒光小・幼児教育資源センターの「読書園」絵本お話館で4～8歳の子どものとその親を対象に、毎週土曜日の午前10時から11時まで行われた。活動内容は、イントロダクション、自己紹介、読書園紹介、お話の時間、絵本の話、毎月のテーマによるショーウインドウ展示の話(4月子どもの日、5月母の日、6月健康、9月人間関係、10月中秋の祭り、11月道德教室、12月ハッピークリスマス)である。絵本のお話は、このテーマに沿った絵本の話を変えて行われている。

読書の楽しみ講話は、4、5、10、11月の毎週水曜日午後1時間半、幼児、教師、ボランティア、親などを対象に、歓迎式、読書園紹介・案内、お話の時間、読書活動、自由活動などの内容で実施されている。

5) お話ボランティア養成, 親子読書指導

これらの活動を支えるのは、研修をうけたお話ボランティアと親子読書指導である。

お話ボランティアについては、2008年度には3日間18時間の訓練が行われた。内容は、お話ボランティアの任務と使命、テーマ別ブックケースと物語の家の知識、絵本を用いた物語の説明、お話ママチームによるお話の表現方法、読書資源利用・訪問活動、お話ママチーム活動の実際の参観・県立図書館、チーム活動のスキルとトレーニング、読書アウトリーチ活動、お話

ゲームや練習である。ボランティアはワークショップを取り入れた訓練によって親子読書に関する多様な知識とスキルを獲得し、自信を持って活動している²⁸⁾。

また、親子読書指導についての研修（2日間）で用いられる資料に『台北県 親子読書教育手冊 台北県幼児読書指導叢書 親子読書趣』（台北県政府，総編集 陳浙雲（莒光國小・校長））（2008）がある²⁹⁾。その内容は次のとおりである。

10単元 理論と実践（ワークショップを含む）

1. 読書の種をまく 子どもの読書の責任は親にある
2. 絵の中には物語がある 絵を読む時の要素と指導法
3. 駿馬の絵を頼りに良馬を探し求める 絵を読む方法
4. 文字は隠れている 親子読書の方法―「文字を読む」
5. 物語の天地 親子読書の技法―「物語を考える」
6. 読書好きにする 読書を続ける
7. 読書を進める方法 幼児の読書習慣を培養する
8. 本の香りのする家庭 親子読書の環境を造営する
9. 年齢に適した読書 年齢に合った読み物を選ぶ
10. 開けゴマ！ 親子読書資源の認識と活用

ここでは読書を進めるポイントとして、「読書の種子を撒く」、「子どもの読書と親の責任」、「読書は幼児の心身の発展を助ける ・知識欲を満足させる ・情緒を豊かにする ・言語の発展を助ける ・豊富な学習内容がある ・場面を想像させる ・思考力、問題解決能力を養う」ことが挙げられている³⁰⁾。

特に、就学前からの読書の重要性については、「・小さいときから良好な読書態度と習慣を身につけることは、未来の学習の可能性を無限に拡張することになる。 ・幼年期は読書する態度と習慣は読書を培う時期であり、それは必ず成長後の読書への動機と読書活動に大きく影響する」と指摘し、上述した学習型家庭建設に結びつけている³¹⁾。

さらに親の果たすべき役割として、「親は幼児の読書にとって重要である ・家庭は、早期の読書経験の主要な源を提供する。 ・親は、幼児の行為の模範となる。」をあげている³²⁾。

親子読書の効果には、「・親子が相互の動きを促進する ・親子の感情を増加させる ・家庭生活を豊かにする ・学習の基礎を定める ・コミュニケーションについて学ぶ」をあげている³³⁾。

4. 要約

以上のように、台湾の家族生活教育における読書活動および親子読書活動と、台北県幼児教育資源センターにおける活動について検討した結果、次の点が明らかになった。

- (1) 台湾においては、家族生活教育の「幸福家庭123」のもとに、「1. 親が毎日、2. 20分

間, 3. 子どもと一緒に3つの活動 ①読書, ②共同活動, ③スポーツ・遊び」の活動をするなかに, 読書活動・親子読書活動が位置づけられている。これらを通じて, 親密な家族関係・親子関係を育成することが重視されている。また, 読書活動は, 学習型家庭を建設する基礎と考えられている。

- (2) 幼児教育資源センターは, 親子読書活動のなかで, 絵本お話館, 宅配サービス, カンガルー親子読書キャンプ, 緑陰読書, 読書の楽しみ講話など多様な活動を展開している。
- (3) 親子読書運動を推進する要諦として, お話ボランティアの養成, 親子読書指導が実施され, 各種の指導書が作成されている。

日本では, 児童文学者で鹿児島県立図書館長であった椋鳩十が「母と子の20分間読書運動」(優れた本を, 20分間ぐらい, ちいさな声で子どもが読むのを, お母さんが耳をかたむける)を提唱し, 1960年に本格的に運動を開始し, 1961年には鹿児島県で10万人が参加, その後, 全国に広がっていった。

椋は「心をつくるもの」という文章の中で, 次のように述べている。

「人間の行動を左右するのも心であり, ものを思い, 考え, 感じることもすべて心である。

この心は

見る

聞く

読む

この三つのものがつくりあげるのである。

温かい心, 冷たい心, やさしい心, ねじけた心, 素直な心, 人殺しも平然とする心, 朗らかな心, 暗い心, これらのものは, 幼い幼い日から, 何を見, 何を聞き, 何を讀んだかによって決定されていくのである。」

「幼い幼い日に, 母が, 優れた本を讀んでやるということは, 子どもの人生にとっても, 重要なことなのである。優れた本の中には, すぐれた喜びがあり, 楽しさがあり, 感動がある。そういうものとともに, 母の聲が, 子どもの心ふかく深く沁みこみ, 子どもの心の中で, 一生を通じて鳴りひびき, 折りあるごとに, 母の聲は, 子どもを励まし, 美しい思い出の方に, 引き込んでいく。こういう子どもは, 悪の道にひきこまれて行くことはないであろう。」³⁴⁾

椋は読書運動を通して多くの事柄に変化をもたらすことを望んだのである³⁵⁾。

台湾での親子読書活動を通じた家族生活教育の実践は, 家族生活教育の実践, 特に幼児期における家族生活教育への多様なアプローチのひとつとして読書活動が可能であり, 有効であることを示唆する。

今後の家族生活教育のカリキュラム開発では, 海外の経験と, 日本における経験の蓄積を踏まえた独自の家族生活教育の方法論を開発し, プログラムを編成していきたい。

倉元：台北県政府幼児教育資源センターにおける家族生活教育と読書活動・親子読書活動

謝辞

本研究では、輔仁大学陳若琳准教授、台北県政府教育局社会教育科科长兼代家庭教育中心蘇珍蓉主任、莒光國小陳浙雲校長、後埔國小石玉森校長、幼児教育資源中心羅瑞鳳秘書、福山市立大学正保正恵教授、元富士市会議員山下いづみ氏ほか、多くの方々にご協力をいただきました。記して感謝申し上げます。

本研究は科学研究費補助金研究 基盤 (C)「生涯学習としての「家族生活教育」のカリキュラム開発研究」(2009-2011, 研究課題番号: 21500703, 研究代表者: 木村範子)による研究の一部である。

注および参考文献

- 1) 正保正恵, 山下いづみ, 倉元綾子, 山口厚子, 鈴木真由子, 木村範子, 中間美砂子: 台湾における「家庭教育」-日本の家政学が家族に貢献するための基礎的研究-, 家政学原論研究, No.42, 129-139 (2008) .
- 2) 拙稿: 台湾におけるジェンダー平等教育と性教育, 家政学原論研究, No.44, 2-13. (2010) .
- 3) 正保正恵, 倉元綾子, 山下いづみ: 家庭教育法に基づく家族生活教育システムの実態(1) -台北県政府家庭教育センターにおけるシステム, ボランティア人材育成とボランティアの役割を中心にして-, 家政学原論研究, No.44, 23-31 (2010) .
- 4) 拙稿: 韓国における家政学を基礎とする家族生活教育と家族支援のための「健康家庭士」養成システム, 鹿児島県立短期大学紀要自然科学編, No.61, 15-28 (2010) .
- 5) 拙稿: 韓国における家族生活教育の成立と展開-健康家庭基本法の成立をめぐる-, 家政学原論研究, No.45, 2- 8 (2011).
- 6) 台北県は2010年12月25日から新北市となっているが, 本報告では旧名称を用いる。
- 7) 新北市教育部全球资讯网 <http://www.ntpc.edu.tw/web/Home?command=display&page=flash> (2011年 9月20日)。
- 8) 台北県政府:『新家庭運動-幸福家庭123 親子手冊』台北県政府, 板橋市, 5- 6 (2006)。
- 9) 新北市政府『新北市幸福家庭123 親子手冊 (児童篇)』新北市, 新北市, 11 (2011)。
- 10) 台北県政府家庭教育中心:『台北県幸福家庭123 親子手冊 (青少年篇)』台北県政府家庭教育中心, 板橋市, 13 (2008)。
- 11) 同上, 20-43.
- 12) 同上, 20-21.
- 13) 同上, 22-43.
- 14) 新北市政府: 前掲9), 22-43.
- 15) 台北県政府家庭教育中心:『台北県家庭教育手冊 (第二版) 幸福家庭 EASY GO』台北県政府家庭教育中心, 板橋市, 85-91 (2009)。
- 16) 同上, 89.
- 17) 同上, 90.
- 18) 台北県幼児教育資源中心:『台北県幼児教育資源中心 親職教育推廣服務』(2009年9月7日)。
- 19) 新北市政府幼児教育資源網: 前掲7)。

- 20) 台北県幼児教育資源中心：前掲18).
- 21) 同上.
- 22) 同上.
- 23) 台北県幼児教育資源中心：『閱讀園』（リーフレット），台北県幼児教育資源中心，板橋市（2009）.
- 24) 16大テーマとは，人間関係，日常生活，家庭，コミュニティの配慮，ジェンダー平等，生命教育，道徳教育，安全教育，想像，認知学習，自然観察，世界観，芸術教育，古典童話，台湾郷土，工学書である。
- 25) 台北県幼児教育資源中心：前掲18).
- 26) 同上.
- 27) 新北市幼児教育資源中心：前掲7).
- 28) 同上.
- 29) 台北県政府，総編集 陳浙雲（莒光國小・校長）：『親子閲読趣 台北県 親子閲読教育手冊 台北県幼児閲読指導叢書』台北県政府，板橋市（2008）.
- 30) 同上，10-11，74.
- 31) 同上，11，74.
- 32) 同上，11，75.
- 33) 同上，11-12，75.
- 34) 棕鳩十：「心をつくるもの」（自筆原稿，執筆年不詳），親子読書運動50周年記念シンポジウム，棕鳩十記念（2011）.
- 35) この親子読書運動は現在まで受け継がれており，学校・行政・地域で読書運動に関わる人々によって「親子読書地域文庫全国連絡会」というネットワークが作られ，『子どもと読書』誌が発行されている。